

1日1日

第1号 2021年4月20日(火)

葛小中学校進路通信 担当:永田



今年度の進路指導を担当する永田寛之です。みなさんの中学校卒業後の生活に向けて、みなさんからのお話をもとに、高校や会社などと相談していきます。1年間よろしくお願いします。

この進路通信は

中学部のみなさんを対象に発行します。中学部は基本的に3年間しかいることができません。その間に卒業後どの高校でどんな勉強をするのか、どんな仕事につくのかなど「進路」を自分で決めなくてはならないのですが、忙しい毎日の中でまだ見えない未来の生活の姿について考えることは難しいのではないのでしょうか。それが少しでも明るくなればとの思いでこの通信を発行します。

進路に向けて

夢中になれるもの 好きなことは大切にしよう

先日、将来どんな職業につきたいかが決まっているかどうかを9年生に聞いてみると、ほとんどの人がはっきりしていませんでした。無理もないなあ、と思いました。中学生になって毎日が忙しく充実していると、目の前のことに夢中になり将来のことについて考えるゆとりがなくなりがちです。また、小学生の頃にあこがれていた職業につくことの難しさや、仕事には華やかな面がある一方で大変な苦勞があることがわかり、進路を決めることの難しさがわかってきます。同じ場にいた3人の先生も中学生の頃は決まっていなかったとおっしゃっていました。

私も決まっていませんでした。小学生の頃はお坊さんにあこがれていたのですが、中学生になってから学校に行くのがとてもいやになって、義務教育が終わったらどんな仕事でも良いから早く働いてお金を稼ぎたいと思っていました。でもそんなことを考えている仲間がおらず、まわりの大人も「とりあえず高校大学には行きなさい」と言っているので、よくわからないままなんとなく従って生きていました。その後、中学校の吹奏楽部の指導に誘われたことがきっかけで、今の仕事につきたいと決意しました。25歳の時です。別の仕事をしつつお金を稼ぎつつ、通信教育の大学で先生になるための勉強をしてなんとか今の自分があります。

なんとなく生きていた中でも、チューバという楽器の演奏は大好きで切らさず続けていたことが偶然の出会いを生み、「これだ!」と目を覚ますことができたのです。陸上や卓球、バレーボールやサッカー、野球や空手、柔道や料理、絵を描くことや踊ること…夢中になって取り組んだことが自分自身に教えてくれることはたくさんあります。自分に気づかせる状態を維持するためにも夢中になれるもの、好きなことは大切にしたいと思います。

なんとなく生きていた私ですが、おかげさまで今は充実した毎日を過ごすことができます。とはいえ母親をはじめとして多くの人に迷惑や心配をかけたので、もっと早くに進路を定めていればなあ、とも思います。

もっと大切なことは

「早寝早起き朝ごはん」「あいさつ」「できることは自分で」

入学式で校長先生から出された「3つの約束」です。小学1年生に向けての約束ですが、安定した生活リズムで健康な生活を送り、周りの人たちと良い関係を保ち、自分のできることを増やしていろいろな力をつけていくことにつながるとても大切な習慣です。これが毎日できていけば、いろいろなことに気づくことができる心身ともに健康な状態を保ちやすくなります。

意外とこの約束は難しいものです。中学生になると部活動や塾などで忙しくなりがちで、上手に時間をつくる工夫が必要になります。かく言う私は全く守れていませんでした。小学生の頃はほとんど守れていましたが、中学生になると夜遅くまで起きていることが多くなり、朝ごはんも食べずフラフラの状態です。遅刻ギリギリに登校する毎日でした。守れたのは「あいさつ」だけです。一度リズムが大きく崩れると戻すのはとても難しく、新聞配達の仕事をするまで治りませんでした。私がなんとなく生きていた期間が長い原因の一つはここだと分析します。いろいろなことがどうでもよくなってしまい、好きなことにも打ち込み切れず、勉強もわからないことが多くなっていきました。

この3つの約束はとても大切だと痛感しています。自分の状態が良くないと、気づけるものも気づけません。見えるものも見えにくくなりがちです。少しずつでもよいので整えることを願います。守れている人は忙しくなってもそれを理由に崩さないように気にとめてください。

まずは1日1日の過ごし方から大切に…。